

いわてスポーツアカデミー支援事業 経過報告

岩手県山岳・スポーツクライミング協会 専務理事 畠山 晃

山岳・スポーツクライミング協会ではアカデミー支援事業の指定を受け「選抜チーム」を中心とした中学生の強化に取り組んでいます。入門期の「ジュニアチーム」と選手たちの「強化チーム」をつなぐ段階として「選抜チーム」は編成されています。日常は県内コーチの指導を受け、体力の向上を図る「基礎トレ」をベースに基本ルートの攻略を狙った「登り込み」そして、競技会を想定した「オンサイトトレーニング」を中心に練習を行っており、さらに県外への遠征（今年は未実施）や講師を招いての研修会に参加して実力を高めています。

先日は世界ユース優勝の天笠颯太選手（神奈川県）を招聘し強化・選抜チーム合同の実戦を想定した練習を行いました。天笠選手からは岩手のユース選手達が力をつけていることがまず伝えられた上で、決められた時間内でルートを攻略する思考手順が示され、天笠選手設定の課題を使って具体的に時間内でクリアする実戦練習を行いました。足の置き場のほんの少しの違い、態勢を起こすちょっとした角度の違い、その的確な指導はさすが選手とと思いました。最後に登れなかった課題は必ずクリアすること。そして登って終わりではないこと、10回に1回程度登れただけでは試合ではまず登れないこと、3回に1回程度登れるまで精度を上げ、体に馴染ませた力こそが試合で生きると宿題を残していきました。実戦で肌で感じた感覚から出る言葉の力に我々指導者も学ぶことがしきり



の研修会となりました。

また、今回の研修会は「強化チーム」そして「一般選手」と合同で行いました。これは選抜チーム（小学校高学年～中学生）の子ども達がより力ある人達の登りを実際に見て参考にして力量を高めてほしいこととともに、自分達が多くの人達から応援を受ける立場であることを体感し、より高い目標に向かって意欲を高めてほしいと行っているものです。今後もこのアカデミー事業の「岩手からメダリストを」という趣旨に向けてユース世代の強化にこの支援事業を有効に生かしていきたいと思っています。

